

市施設等の温室効果ガス排出状況（平成20年度）調査結果について

市では、平成14年度に「羽曳野市地球温暖化対策推進実行計画」を策定し、市の各公共施設等の事務事業によって排出される温室効果ガスの排出量を平成22年度で、平成13

年度比11%削減を目標に取り組みを進めています。市ではこれまでの進捗状況を把握するため、平成20年度の温室効果ガス排出量の調査を行いました。

1. エネルギーの使用量等

表1 エネルギーの使用量等（年間）

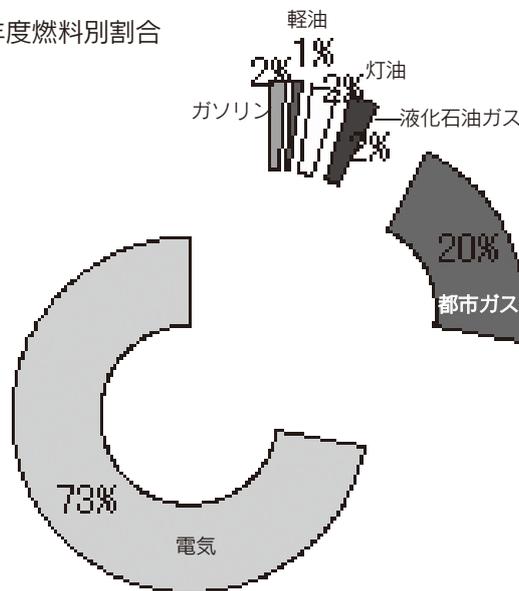
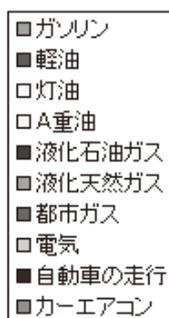
			平成13年度	平成20年度	増減
燃料使用量	ガソリン	L	77,127	56,277	▲20,850(-27.0)
	軽油	L	45,453	32,686	▲12,767(-28.1)
	灯油	L	95,014	78,319	▲16,695(-17.6)
	A重油	L	7,700	4,039	▲3,661(-47.55)
	液化石油ガス(LPG)	kg	90,730	65,280	▲25,450(-28.1)
	液化天然ガス(LNG)	m ³		3,990	3,990(-)
	都市ガス	m ³	959,573	844,621	▲114,952(-12.0)
電気使用量	kWh	17,421,389	16,523,106	▲898,283(-5.2)	
公用車走行距離	km	713,469	584,788	▲128,681(-18.0)	
HFC-134a封入カーエアコンの使用(年間)	台	131	140	9(6.9)	

平成20年度の温室効果ガスに関連するエネルギー別の使用量等は、表1のとおり、ほとんどのエネルギーの使用量が大幅に削減されています。

2. 平成20年度の温室効果ガス排出量

	平成20年度(kg-Co2)
ガソリン	130,656
軽油	85,613
灯油	194,974
A重油	10,944
液化石油ガス	195,860
液化天然ガス	10,764
都市ガス	1,698,559
電気	6,047,457
自動車の走行	4,676
カーエアコン	2,730
計	8,382,232

平成20年度燃料別割合



平成19年度の排出係数を用いた市の事業実施に伴う平成20年度の温室効果ガス排出量は年間8,382トン、そのうち約73%が電気で、約20%が都市ガスの使用によるものです。

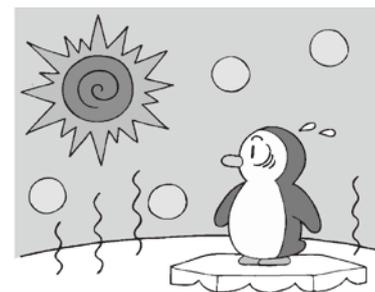
3. 温室効果ガスの平成13年度と平成20年度の比較

平成13年度と平成20年度のエネルギー使用等に起因する温室効果ガス排出量を比較するために、平成11年度の排出係数を用いて、排出量を比較すると、平成20年度は平成13年度に比較して8.4%削減していることがわかりました。

「羽曳野市地球温暖化対策推進実行計画」では、平成22年度における温室効果ガスの総排出量（二酸化窒素換算）を、平成13年度を基準として11%削減を目標としていますので、目標達成には、さらに取組を強化することが求められています。

表2 エネルギー使用等に起因する温室効果ガス排出量の比較（単位：kg-CO2）

		平成13年度	平成20年度
燃料使用	ガソリン	178,163	130,000
	軽油	119,995	86,291
	灯油	238,484	196,581
	A重油	21,329	11,188
	液化石油ガス(LPG)	274,003	197,147
	液化天然ガス(LNG)		11,132
	都市ガス	2,063,082	1,815,935
電気使用	6,219,435	5,898,749	
自動車の走行	5,007	4,116	
HFC-134a封入カーエアコンの使用(年間)	2,554	2,730	
合計	9,122,055	8,353,868	
増減(%)	-	▲768,187(-8.4)	



注) ()は、平成13年度の排出量に対する増減の百分率を示す。